

# 武装蜂起

No.239

84. 1.12

マルクス主義学生同盟  
中核派・京大支部

下京区寺町通松原上ル京極町四九七

元

革命軍はたたかう全人民の待ちに待った軍報を発した。一月九日、

わが革命軍は全国四カ所で同時蜂起し、三里塚の敵・全人民の敵!!

第四インター反革命分子に対し、正義の赤色テロルを叩きつけたのだ。

川川阪崎  
品立東尼

# 1.9第4インター反革命分子4名をせん滅! 脱落・尾形派を解体・一撃し、325三里塚現地人全学は蜂起せよ!

2  
28

全関西三里塚大集会

これら四名は、いずれも脱落派の主軸をなす第四インターのメンバーとして、日夜三里塚闘争の破壊に奔走し、白色テロルに手を染めていた極悪反革命分子である。彼らに対する反対同盟、たたかう会、党と軍の怒りが遂に炸裂したのだ。

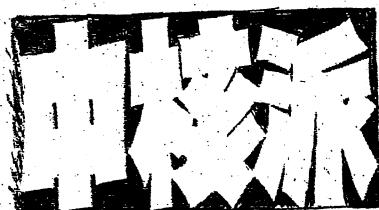
全ての年を諸君、われわれは今こそ、声を大にして訴える。  
九戦闘ひきつき、三・二五三里塚へ全学は蜂起せよ!

第二次中曾根内閣をもつて、日帝はいよいよ軍大化、改憲、アジア侵略へ突進しだした。歴史を画する人民の反撃が必要だ。三里塚を守れ! いっさいはそこにかかるこいる。一・九戦闘はそのためにならざれた。日帝・公団の二期攻撃の粉碎へ、その手先に鉄鎧が下されたのだ。勝利の展望は拓かれた。反対同盟の呼びかけに応え、共に三・二五へ起ち上がろう。

本稿をわれわれは以上の観点から展開し、とりわけ

九戦闘の正義について、全ての学友に明らかにしたい。

同時にわれわれは、第四インターと同じ所業に手を染めた「三闘委」(京大脱落派赤ヘル)に対し、次のように問ねばならない——お前達はどこまでも第四インターと共に行くのか、と。



# 3.14復讐戦貫徹! 反革命力クマルせん滅!

## 人民の怒りは遂に爆発した！

一・九戦闘は第一回に、脱落派・第四インターの暴力的闘争破壊、白色テロル、警察と結託した悪業の数々に対する、たたかう人民の積もりに満ちた怒りの爆發である。

われわれはあえて言う。これまで連中がやってきたことを想えば、われわれの怒り、反対同盟と三里塚勢力の怒りは、まだまだこんなものではない。一・九戦闘で、奴まりはしないのだ。

昨年三・八、反対同盟を分裂させたのは誰だ、日帝

公団の二期攻撃に対し敷地内農民先頭に反対同盟が必死にたたかい抗してゐる時に、脱落派は敵の「話し合い」攻撃に屈服し、条件交渉の道へ転向するために、同盟内民主主義を完全に無視、破壊して分裂を進行したのだ。

その口実となつた「一坪再共有化運動」は、あろうととか金もうけのために反対同盟の土地を売り飛ばそぐとするものだ。十八年間のたたかいの結晶である「農地死守」を平然と踏みにじり、丸裸にして日帝・公団にさし出そうといつたのだ。

連中はこんな暴力的闘争破壊を行なつたあげく、たたかう者に対し、権力と結託して全国で白色テロルをふるつてきた。たたかう労働二十八名に集団テロ、リンチをして京太郎で鉄鎌を浴びた三木は、「警察を呼んでくわえ、あげく警察に売り渡し逮捕させた七・一闇西脱落派集会を見よ、現地岩山記念館を武装襲撃し、金子連環闘に重傷を負わせた十一・二〇脱落派事務局長皆殺

## 2 日帝・公団の一二期攻撃に大打撃

一・九戦闘は第二回に、日帝国家権力と脱落派・第四インター一派の二期着工攻撃に対する、断固たる反撃のたたかいである。

脱落派・第四インターが、こうした暴力的闘争破壊の責任をもつて貰いつとしてきたのは何か？ 敷地内裏行、反対同盟とこの存在が日帝・公団を追いつめている時

昌平の暴行を見ゆ、二十九を原点に彼らの暴行は現地三十数件、全国無数に及んできた。三里塚をたたかう者が、権力の強圧との死闘下で、彼らに付し無抵抗できむのをよこしたのだ。

これらいゝさいの最大の主謀者が第四インターだ。これを想えば、日帝・公団は自分達がやったことと公言し、今なお唯一必

死で「一坪再共有化」を進め、全国で白色テロルの実行部隊を担つてきた者こそ、彼らであり、田辺・太田・三木・尾形共なのだ。

彼らは人民内部の存在ではない。白色テロリスト、階級敵だ。たたかう人民の怒りは抑え難いまでに高まっていた。いや抑えるわけにはいかなかつた。このまま彼らを放逐し黙殺しておなれば、反対同盟は破壊され、たたかう者は次々と傷つき、倒れ、権力に売り渡されて、三里塚と人民の未来は彼らの手でメチャクチャにされていなかつてはならない。

今日、脱落派は警察と一体化した姿を隠そつともしていな。とりわけ第四インターは、これまでわが違反に付し「警察を呼びや」「ほどの言辞を繰り返してきた。

あがる」と声明したのに對し、脱落派事務局長皆殺は翌日直ちに「姿勢をわかつてもらえるなら考える」と「話

そもそも脱落派は、一九年ハ・一五合意（政府・公団との秘密会談）以来、「空港絶対反対・一切の話と合い拒否」の反対同盟の基本路線へ敵対し、悶然公然と公団との密通を続けてきた連中である。今日彼らは、「話」合ひ一条件交渉—「土地明け渡し」の「路線」の下に寄り集まり、その裏切りの眞徴のためにたがう者に暴力的に襲いかかるに至った。二月芝山町議選における、反対同盟の鈴木幸司候補選のため「立候補した脱落派候補に至っては、空港見返り事業の要求のみをあけすけに叫び立てておいではまじいか。

脱落派は日帝・公団の一二期竹槍の先兵である。とりわけ

一一・一五八激突は始まつた。

一一・九戦闘は（第三ニ）三・二五現地大闘争に至る鮮起戦の、断固たる開始である。

二期早着工攻撃を何としても粉碎しなければならぬ。今日、日帝・公団は、脱落派を使ひ三・二五過程で反対同盟を破壊し、二期を着工せんと、敵の側からの方戦に出てきている。死力を尽くして、これに反撃しなければならない。

ここに二期激戦のいっさいがあつてゐる。人民の未来が不本意である。11・20脱落派事務局長、菅沢昌平

の現地白色行口—21日長谷川・沼田会談—22日菅沢「話し合ひ」応諾発言が、事態の急迫を示した時、われわれは四ヶ日の死闘・内乱を宣言し、たたかいで突入していくのである。

一一・九戦闘は、脱落派、第四インターに対する戦争の開始であると共に、三里塚二期決戦勝利・革命的武装闘争の全面的飛躍の宣言である。われわれは、これから三・二五へ向けて、革命的武装闘争の一個の蜂起的爆発をさせようとしているのだ。もって、敵の二期着工策動を完膚なきまでに粉碎し、人民の皆川三里塚闘争を守り抜いていくのだ。

一一・九戦闘の激烈さにふさわしく、われわれは無制限封制約の対日帝アリラ・バルチザン戦争を、次々と猛烈に進めていく。反革命力ウマル・好レ、三・一四復讐の鉄趙矣、脊髄なく叩き込んでいく。第四インターに対する

一二一・一九二・オ三の一・九が与えられるであろう。そして、一二一・激突の只中で、三・二五空前の人民総決起を亦

け第四インターは、最大の責任党派として、「二期ない

」論、分裂と「一坪」の推進、白色テロルとそのイデオロギー的・運動的・組織的支持となってきた。彼らは、単なる脱落派ではない。敵の先兵であり、その背後に、

一期政鑿粉碎のために、脱落派、第四インターのせん滅・粉碎、一掃は必要不可欠である。一一・九戦闘は、脱落派を先兵として一期（相模）の策動（バタズタに引き裂き、日帝・公団に対しても重大な打撃を与えるものとなつた。

パルチザン的・ゲリラ的・手口ル的戦闘の意義

—(3)—

それは同時に、八十年代中期階級戦への、わが内乱

的事実である。第二次中曾根内閣の下、日帝がいよいよ軍事大國化・改憲・侵略戦争へのめり込んでいくのに對し、われわれは、文正序章即戦争路線の全面物質化をして応えるのだ。

われわれは、日帝国家権力との内戦的死闘下にあって、脱落派・第四インターに対するせん滅戦争をたたがい抜くのである。更にそれ自身、三里塚二期決戦勝利・革命的武装闘争、対日帝革命戦争の一環である。

それゆえ、あたたかいまは、当然パルチザン的・ゲリラ的・手口ル的戦闘を軸とする。われわれは、兵をもって権力との対峙下における戦闘の速戦即決性と、戦争自身の戦略的長期苟烈性を統一していくのである。公然的大衆的政治闘争と分離された軍事としての軍事によつて、第四インター打倒を、合法的なる一個の戦争として展開しきるのである。そして、これを対日帝革命的武装闘争、対カクマル戦・自衛された大衆的政治闘争と戦略的に結合し、革命戦争の全面的發展をなしていく。

脱落派・第四インターとの戦争への突入は、日本階級闘争の内乱、内戦的多義性、内戦複数の並行、激化である。

かう人民と脱落派・オ四インターの間の、正義と不正義、やみはしない。

勝利と敗北のすう勢を鮮明にした。

三・八分裂以来の第四インターの数々の悪業に対し、われわれは、何度も警告を繰り返してきた。ところが連中は、「党派戦争、やれるものならやつてみる」などと書いて、暴力的闘争破壊を繰り返してきた。身も心も権力に売り渡した彼らは、自ら内戦に火を放つおきながら、警察と結び、その庇護の下にあれば革命派や人民は手出しきれないと思つていたのだ。

だがわれわれは、三里塚と階級闘争、人民の命運に責任をとる者として、死活的反撃を決断した。そして満を持して起ち上がったのだ。

第四インターよ、

これが革命派の怒りなのだ。お前達がどんなに権力万能を信じていようが、革命派には通用しない。マイナーとマイカーの前でせん滅されるなどという「アダマナ透」をもつて出したお前達が、これからどんな「戦争」的態応をするものか、じっくりと見させてもらおう。いざれにせよ、始まつた戦争は、お前達の党派的死滅まで、

「一一閑戸呑しら京大脱落派赤ヘルよ！お前たちはどうするつもりなのか？」

II

「三閑寺」ら京大脱落派赤ヘルは、第四インターと同罪である。

彼らは今日まで、三・八分裂を歓迎し、脱落派の一翼として、第四インターと行動を共にしてきた。とりわけわれわれは、連中が七・一関西脱落派集会での二十八名権力売り渡しの当事者であることをほきりさせておこう。さて、これが先お前達はどうするのか？

九で事態は変わつた。現に脱落派、第四インター、といふのであれば、それならそれで確実にお前たちの自己革命派・人民の間に、倒し倒されれる戦争が火を噴いて出だ。われわれは脱落派の解体・一掃まで、断乎としているのだ。この戦争にどういう態度をとるのか。これ以上革命派に敵対し続けるならば、それは明らかに一方の側の当事者としての戦争行為である。

一一一十五東戦で三里塚一期決戦に先制的に突入せよ  
一一一革共同政治局アピールで満身武装せよ！

お前達から見れば數十倍「強勢」な反革命力がマルボ

わぶ十年の内戦の重圧に今日どへなボロボロの姿を手

らけ出していく、お前達もよく知っているはずだ。未

来承認、安心して眠れる夜などありはしまい。

られた。

勝利の展望が拓かれた、人民の正義は武装して貫徹されだ。三里塚は勝つことができる。二期反撃は粉碎することができる。

たたかう反対同盟は、十二由自主暗渠の貫徹に続き、

二日若山町議選を勝へ、鈴木幸司侯補先頭にたたかう抜いている。脱落派との最も激烈な攻防を貫いて、三・二五現地総立会を訴えている。

学友諸君、反対同盟の呼びかけに応えよう。一・九

いちきつぎ、三・二五の爆発で勝利を共に手出ししよう。

— <4> —

世界戦争の危機が急速に到来したこと。帝国主義の軍事力による威嚇は、即ち日本国家権力、本領の三極団の邊境で、全世界を戦争（核戦争）の炎、脅威権力とし、相互通じる戦争田尻國である。

しかし、日本は國主義打倒を突破口に、反帝、反ベタ世界、一ヶ戦争を過然と爆発させ、更に人財と立派な連携を実現しただけではないまゝ。世界革命の最終張揚して、一ヶ戦争の結合をめぐらし、一ヶ戦争を起を作り、機会になるか否か知らぬまゝの情勢に対し、二、イニ、上記へ付く。同時にそぞろく、一ヶ戦争の反乱的爆發を実現する四大陸階級力量、決戦能力、蜂起勢力、党勢力へを投げすてて決起すべくされた。

二回目一、一ヶ戦争において、黒共和国、中核派は、プロレタリアーティズムの臨終的利權を守る唯一の前衛党

として、对日半殖民地戦争、三里塚一帯決戦勝利、革命的

武装闘争に誰一人底の生れの道がある」とを唱へかん。

その根底貫徹を叫喚した。

三、一ヶ戦争の爆發のために、生れたたたかう對抗は、派系につつて。  
一、一ヶ戦争アピールで渾身底凝じ、勝利の確信がつた  
はやく四重打撃の綱領的全体性を表わす文書であつて、  
派めどセラフの秘密を有したものであるが、こゝあえて、派系運動の綱領的本體は、帝国主義打倒の反帝、権力廢止のアピールを以て、一帯決戦した。に掲載して置かれ。

（第11回）三、一ヶ戦争の蜂起戦性に付いて、反乱女生誕生。「黒毛先生」の誕生である。その階級的役

名。

三、三里塚の決着的勝利を

二、一ヶ戦争、中曾根は、一個の蜂起的決戦である。  
日本、中曾根は、田中空港一帯の死活争に不可欠とした。走的バネとなるべき也。

三、一ヶ戦争、改憲、統治形態のボナパルティズム的転換にと

て、成田空港の命日の計略、全く用ひられない。しかし

も中曾根は、ロシキード田中判決一帯の総選挙と政治危機が深刻化する中で、一ヶ戦争階級結集策として、この脱離派を使つて、三、一ヶ戦争で反対同盟を破壊せし、「脱離派」一無意味を組んで、このの外。セガリ一派の暴動を長期にわたる大口半殖民地戦争の端緒とした。里塚は、「帝国主義死すべし」の革命的祖国取扱半殖民地、今日出たたかいとして、社共、カワツマル、脱離派の總臣服、給駆向へりへや、人民へ皆となつてやめた。

今日、一ヶ戦争勝利が古かという形で、ブルジョアジ

ーとプロレタリアー、中曾根と人民へ非和解的階級利害が争うる。しかもやがて三、一ヶ戦争の決着点となるべく、いゝ情勢を握起へと結びつけられかねない。ここにくるや。だから三、一ヶ戦争は、一期攻撃の死活的切掛け中で、血熱的爆發情勢、絶対戰爭品種へと發展を担つて得て居る。軍と大衆の爆起勢力を進撃してこゝへや。

レーニンによれば、即ち「日本は、即ち日本国家権力、失制的内戦戦略を全面物質化し、内戦の徹底激化をも

く、即ち、確実な戰略的前進をかちと。マサニ。やに日本は

政府、公國の半失として同體破壊に動き回らなければならぬ。」

（第11回）一、一ヶ戦争、田中権力とせん滅

戦へ本格的深入へとくの勝利の展開を明らかにしつづける。からりりて、一年間の三里塚一帯決戦勝利、半殖民地化、確実な戰略的前進をかちと。マサニ。やに日本は、一ヶ戦争を長期にわたる大口半殖民地戦争の端緒とした。起反動由半殖民地政權へ下、又配へ民機が強ぬ大半へ掛かり始めていふ。革命情勢、蜂起の情勢が、生落西面にいたる。

が到來した好機は、同時に日帝権力とのせん戦が、よい現実化する過程である。日帝・中曾根は、革同と三里塚勢力が自らを足元から搾るが唯一の努力であることをはつきりと認識し、その壊滅、压殺に死力を尽くしている。

勝利のために、この死闘に突入し、勝ち抜かねばならない。そうして初めて、たたかい続け、生き続けることができる。同時に、対日帝戦争、対カクマル戦争、脱落派・第四インター解体戦の爆発、巨万人民の内乱的武装的絶対起をかちとらねばならない。即ち、三里塚二期決戦勝利・革命的武装闘争のこれまでより二回とも三回りも大きな物質化、全面的飛躍が必要だ。

以上が、ハ四年を迎えるにあたってわが党の問われて

いた問題であつた。

これに対し一・アピールは、簡単明瞭な解答を与えた。敵権力とのせん戦の厳しさ、血みどろ性を見す

ハ四年決戦・三・五決戦の爆発をもって、このようないに勝利的に突入しなければならない。

三里塚二期決戦に先制的に突入し、中曾根打倒へ、敵権力に対する戦争的ヘゲモニーを振りしめよ。本年一・アピールは革共同の革命党としての本史の到来を告げ知らせたのである。

## 2 反革命力カクマルに三・四復讐の鉄鎗を

三・五決戦に至る過程は、同時に、反革命力カクマルとの内戦的激突を不可避とする。七五年三・一四反革命の再建で唯一危機打開を計っている。

（本多延嘉草共同書記長虐殺）に対する復讐の赤色テロルを、奴らの頭上に叩きつけなければならない。十年たは、昨年一年間とくと見せてもらつた。そんなことでは、どうが二十年たとうが、革命党の党首を虐殺した罪は、消えも薄まりもしないのだ。

わが十余年の内戦の重圧は、今日カクマルをどん底の危機に陥れた。遂には内部戦機のりきりのために「生きた伝統」など言い出して黒田個人崇拜運動を始める始末だ。だがそれも黒田の無内容さに空気が入りず、結局革命派と三里塚への権力脱落派の攻撃のみを乞うめねばならない。

## 3 強大な武装せる革命党を建設せよ

全てのたたかう学友は、マルクス主義学生同盟・中核の軍事的政治的指導部として、武装せる革命党がまとめていけるべきである。もって三・五決戦の勝利を、全力で切り拓かねばならない。

今日、日本階級闘争の命運のいゝさいは革命党にかかる。今日の情勢では、帝国主義打倒・暴力革命の旗を公然と揚げ、国家権力との戦争をたたか抜くことなしには、人民のたたかいは一步も前進しない。階級

の世界革命を自己の生き方とする時代的到来である。同時にそれは、全人民が帝国主義打倒・反帝・反スターリンに、荒々しく上方からねばならない。